

第2章 地域特性

2.1 自然環境

2.1.1 位置と地形

本市の北には東彼杵町、南には諫早市があり、地形は、西に大村湾、東は多良岳山系を挟んで佐賀県と接しています。経ヶ岳や五家原岳の標高 1,000m級の多良岳山系を源流とする郡川や鈴田川、大上戸川等の河口部には、扇状地と平坦な地形から形成されており、平野部を中心に市街地が広がっています。



図 2-1 本市の位置図

2.1.2 気候

本市の平均気温は約 17℃で、比較的的温暖な気候となっており、年間降水量は 1,635 mm～2,345 mmとなっています。

表 2-1 気温と降水量（平年値）

	気温(℃)			降水量(mm)	
	平均	最高	最低	月間平均	年間合計
平成20年	16.9	32.0	2.0	141.5	1,698.0
平成21年	17.2	32.3	2.6	137.3	1,648.0
平成22年	17.2	33.2	2.4	164.9	1,979.0
平成23年	16.8	32.2	0.4	156.4	1,876.5
平成24年	16.7	33.2	2.3	162.6	1,951.0
平成25年	17.3	32.1	1.6	136.2	1,634.5
平成26年	16.8	30.3	2.2	148.6	1,783.5
平成27年	17.1	31.8	2.9	195.4	2,345.0
平成28年	17.9	34.8	3.1	188.6	2,263.5
平成29年	17.1	34.8	0.4	157.1	1,885.4
平成20年から平成29年の平均					
1月	6.4	11.9	0.4	52.9	
2月	7.5	12.3	2.0	93.0	
3月	10.6	17.0	3.8	105.7	
4月	15.1	21.3	9.2	162.3	
5月	19.6	25.6	14.2	150.9	
6月	22.9	27.7	19.0	334.0	
7月	27.3	32.5	23.2	239.7	
8月	28.3	34.8	24.1	242.3	
9月	24.7	30.0	20.4	178.8	
10月	20.0	25.0	14.2	150.4	
11月	14.1	20.3	8.2	93.9	
12月	8.6	13.8	3.0	81.5	

出典：気象庁（大村観測所調べ）

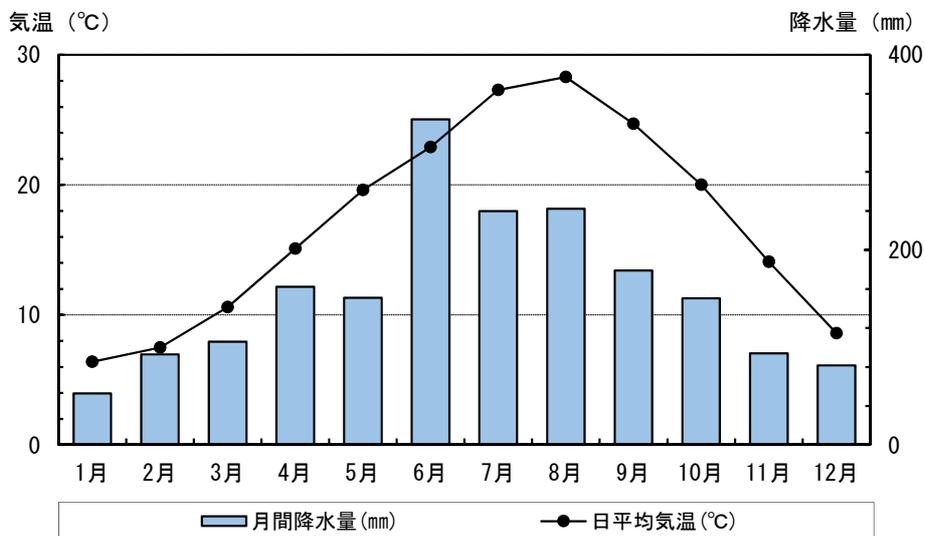


図 2-2 平均気温と降水量（平年値）

2.1.3 水環境

代表的な閉鎖性海域である大村湾の水質は、測定値 17 地点（長崎県）において環境基準値に適合していない箇所があり、水質汚濁の改善が求められています。

本市において、環境基準の類型が指定されている河川は 3 河川 4 水域があり、水素イオン濃度（pH）、生物化学的酸素要求量（BOD）、浮遊物質（SS）、溶存酸素（DO）は環境基準に適合していますが、大腸菌群数は一部を除き環境基準値に適合していません。

表 2-2 大村湾の水質

項目	単位	水域	環境基準値	平成25年度	平成26年度	平成27年度	平成28年度	平成29年度
水素イオン濃度 pH	—	大村湾	7.8～8.3	7.8～8.3	7.9～8.7	7.5～8.6	7.7～8.5	7.9～8.4
化学的酸素要求量 COD ※日間平均値(75%値)	(mg/ℓ)		2.0以下	1.6～2.4	1.9～3.2	1.8～2.7	1.7～2.6	1.5～2.5
n-ヘキサン抽出物質(油分等) ※日間平均値	(mg/ℓ)		検出されないこと	<0.5	<0.5	<0.5	<0.5	<0.5
溶存酸素 DO ※日間平均値	(mg/ℓ)		7.5以上	7.7～8.5	7.6～8.9	8.2～8.9	7.9～9.0	7.9～8.6
大腸菌群数 ※日間平均値	(MPN/100mℓ)		1,000以下	1.8～60	6.5～42	1.9～15	4.9～83	3.7～150
全窒素 ※日間平均値	(mg/ℓ)		大村湾(1)	0.2以下	0.15～0.26	0.14～0.25	0.15～0.28	0.13～0.30
		大村湾(2)	0.6以下	0.32	0.32	0.51	0.36	0.40
全燐 ※日間平均値	(mg/ℓ)	大村湾(1)	0.02以下	0.013～0.024	0.016～0.028	0.012～0.023	0.017～0.035	0.014～0.027
		大村湾(2)	0.05以下	0.036	0.042	0.060	0.043	0.058

【備考】大村湾[類型 A]:測定地 17 点、大村湾(1)[類型 I]:測定地 17 点、大村湾(1)[類型Ⅲ]:測定地 1 点
出典:公共用水域及び地下水の水質測定結果(長崎県)

表 2-3 河川の水質（平成 29 年度）

項目	単位	環境基準値		郡川(1)	郡川(2)	大上戸川		鈴田川	
		類型AA	類型A	郡川砂防公園前 [類型AA]	元城井堰 [類型A]	大上戸橋 [類型A]	山田の滝 [類型A]	鈴田橋下流 [類型A]	西光寺2号橋下流堰 [類型A]
水素イオン濃度 pH	—	6.5～8.5	6.5～8.5	7.3～7.6	7.2～8.5	7.6～7.9	7.6～8.0	7.7～8.0	7.7～8.3
生物化学的酸素要求量 BOD ※日間平均値(75%値)	(mg/ℓ)	1.0以下	2.0以下	0.9	1.1	0.7	0.6	0.9	0.8
浮遊物質 SS ※日間平均値	(mg/ℓ)	25以下	25以下	1	3	4	6	4	3
溶存酸素 DO ※日間平均値	(mg/ℓ)	7.5以上	7.5以上	10	10	9.2	10	9.7	10
大腸菌群数 ※日間平均値	(MPN/100mℓ)	50以下	1,000以下	2,100	19,000	15,000	7,000	28,000	13,000

出典:公共用水域及び地下水の水質測定結果(長崎県)

2.2 社会環境

2.2.1 人口及び世帯数の推移

本市の過去10年における人口の推移は増加傾向にあり、平成29年度の人口は、10年前の平成20年度と比較すると、約4,300人が増加しています。世帯数も増加傾向にあり、平成29年度の世帯数は10年前の平成20年度と比較すると、約4,800世帯が増加しています。

一世帯あたりの世帯人員は減少傾向にあり、平成20年度の一世帯あたり2.43人が、平成29年度には一世帯あたり2.25人となっています。

表 2-4 人口と世帯数

	人 口			世 帯 数	一世帯あたり 世帯人員
	総数	男	女		
平成20年度	91,342	43,724	47,618	37,550	2.43
平成21年度	91,824	43,907	47,917	38,072	2.41
平成22年度	92,239	44,019	48,220	38,485	2.40
平成23年度	92,640	44,141	48,499	38,948	2.38
平成24年度	93,040	44,310	48,730	39,406	2.36
平成25年度	93,644	44,601	49,043	40,003	2.34
平成26年度	93,921	44,718	49,203	40,512	2.32
平成27年度	94,610	45,052	49,558	41,263	2.29
平成28年度	95,146	45,424	49,722	41,893	2.27
平成29年度	95,647	45,690	49,957	42,436	2.25

出典：住民基本台帳(外国人を含む)3月末時点

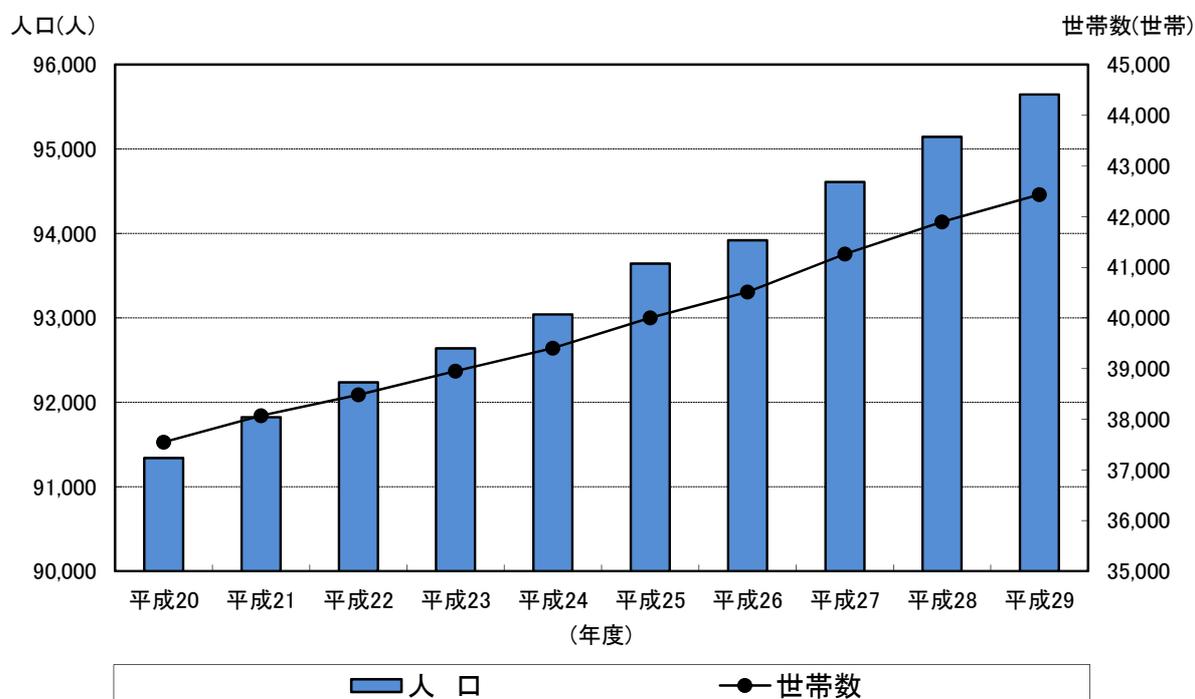
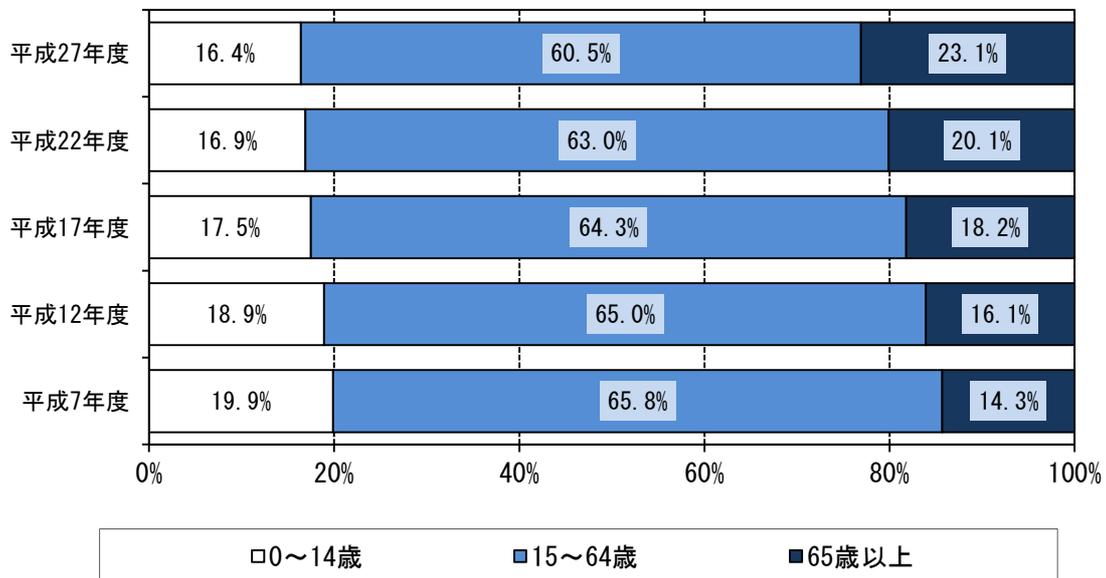


図 2-3 人口と世帯数の推移

2.2.2 年齢別人口の分布

国勢調査における本市の年齢別人口の分布は、平成27年度において0～14歳（年少人口）は16.4%、15～64歳（生産年齢人口）は60.5%、65歳以上（高齢人口）は23.1%となっており、少子高齢化の傾向にあります。



出典：国勢調査

図 2-4 年齢別人口分布の推移

2.2.3 産業の状況

本市の産業総生産額は増加傾向にあります。平成26年度の産業総生産額における産業区分別の割合は、第1次産業は約1%、第2次産業は約20%、第3次産業は約79%となっています。

表 2-5 産業区分別の産業総生産額

(単位：百万円)

産業区分	平成22年度		平成23年度		平成24年度		平成25年度		平成26年度	
	生産額	構成比								
第1次産業	3,288	1.2%	3,171	1.1%	3,359	1.2%	3,138	1.1%	3,133	1.1%
第2次産業	48,831	17.6%	54,217	18.9%	51,832	18.3%	51,973	18.2%	57,811	19.8%
第3次産業	224,573	81.2%	229,413	80.0%	228,723	80.5%	230,319	80.7%	230,263	79.1%
総数	276,692	100.0%	286,801	100.0%	283,914	100.0%	285,430	100.0%	291,207	100.0%

出典：長崎県市町村民経済計算

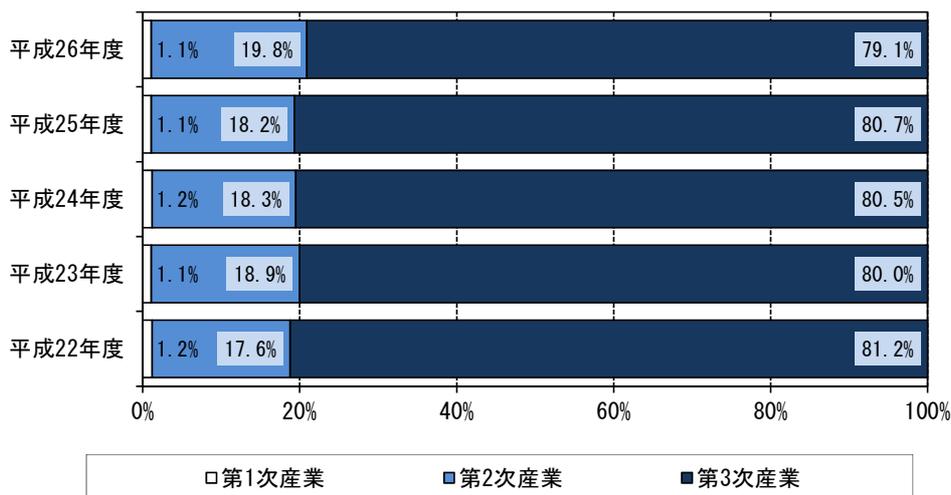


図 2-5 産業区分別における産業総生産額割合の推移

2.2.4 事業所数と従業者数

本市の事業者数及び従業者数は減少傾向にありましたが、平成26年度では全体的に増加傾向にあります。従業者数における産業区分別の割合は、第1次産業は約1%、第2次産業は約17%、第3次産業は約82%となっています。

表 2-6 事業所数と従業者数

産業区分	平成21年度			平成24年度			平成26年度		
	事業所数 (所)	従業者数 (人)	従業者数 構成比	事業所数 (所)	従業者数 (人)	構成比	事業所数 (所)	従業者数 (人)	従業者数 構成比
第1次産業	17	212	0.7%	19	414	1.3%	21	277	0.7%
第2次産業	449	6,374	20.4%	442	6,830	22.1%	440	6,709	17.1%
第3次産業	2,912	24,578	78.9%	2,751	23,656	76.6%	3,054	32,321	82.2%
総数	3,378	31,164	100.0%	3,212	30,900	100.0%	3,515	39,307	100.0%

出典：事業所統計調査、経済センサス

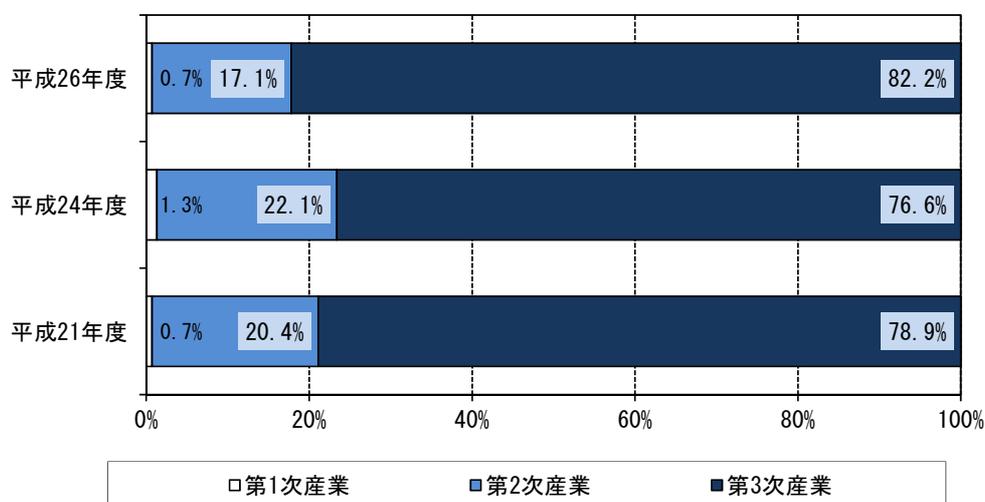


図 2-6 産業区分別における従業者数割合の推移

2.2.5 土地利用

本市全域の面積は 12,662ha(ヘクタール)あり、うち約 47%の 5,987ha を都市計画区域として指定しており、都市計画区域のうち 2,344ha を用途地域に指定しています。

民有地の総面積は 5,260ha であり、田・畑は約 36%、宅地は約 26%、山林は約 24%、原野・池沼及びその他は約 14%となっています。

表 2-7 都市計画面積

区 分		面積 (ha)
本市全域		12,662
都市計画区域		5,987
	用途地域	2,344
	工業系	765
	商業系	196
	住居系	1,383
	用途地域外	3,643
都市計画区域外		6,675

出典:平成 29 年度版おおむらの統計

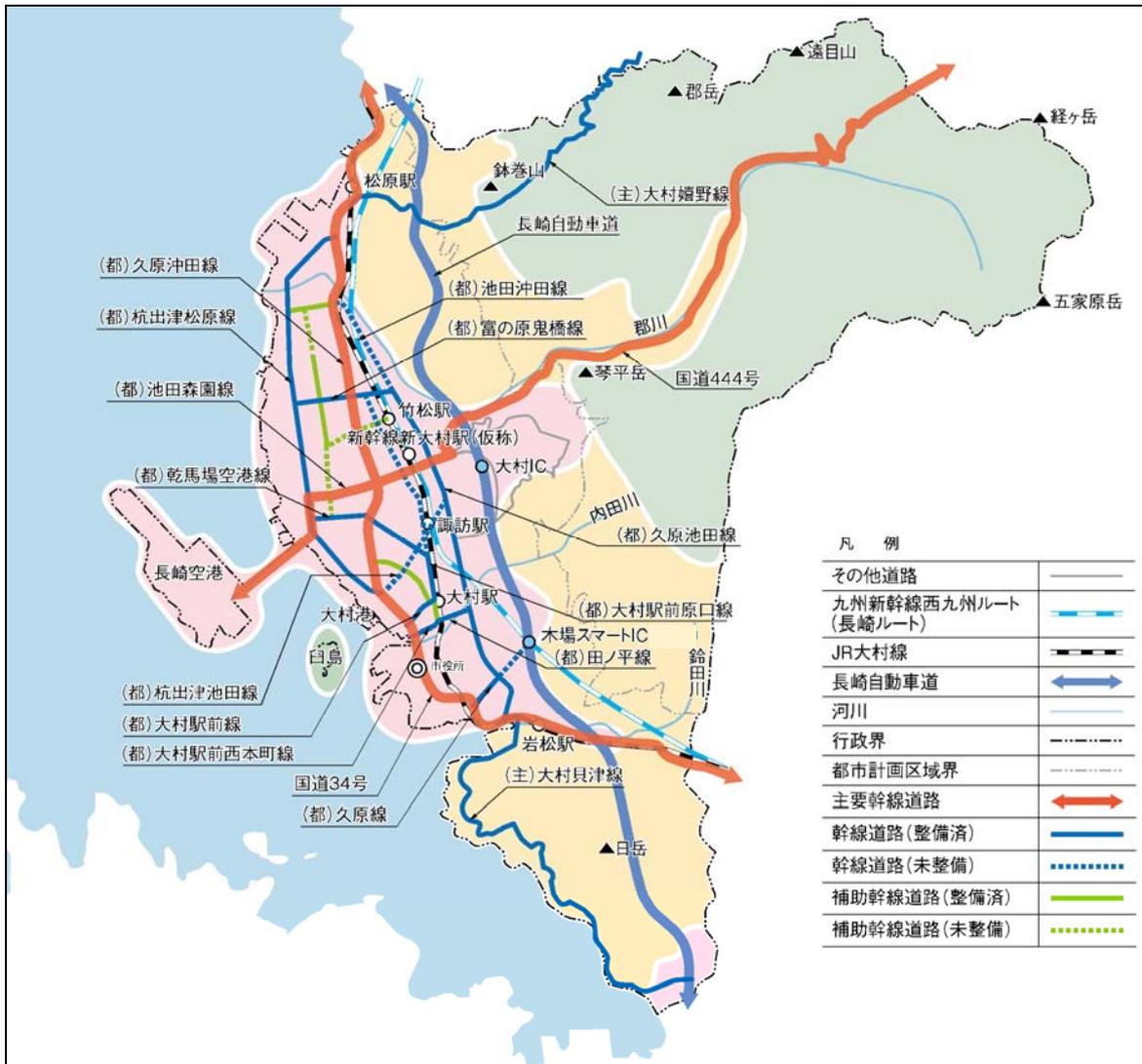
表 2-8 民有地面積

区 分	面積 (ha)	構成比
田	863	16.4%
畑	1,008	19.2%
宅地	1,387	26.4%
山林	1,270	24.1%
原野	299	5.7%
池沼	13	0.2%
その他	420	8.0%
総 数	5,260	100.0%

出典:平成 29 年度版おおむらの統計

2.2.6 交通の状況

本市の交通状況は、長崎空港や長崎自動車道大村インターチェンジに加え、九州新幹線西九州ルートの開業も控えており、高速及び広域交通の要衝としてのまちづくりを進めています。道路は、国道34号を中心に、幹線道路や生活道路などで形成されており、公共交通は路線バスとJR大村線が中心となっています。



出典：第5次大村市総合計画

図 2-7 交通の状況